



Data	
監督:	ロブ・マーシャル
脚本:	ジェームズ・ラパイン
作詞・作曲:	スティーヴン・ソンド ハイム
原作ミュージカル:	スティーヴン・ソンド/ハイム、ジェームズ・ラパイン
出演:	マッケンジー・マウジー/メリル・ストリープ/エミリー・ブラント/ジェームズ・コーデン/アナ・ケンドリック/ジョニー・デップ

👁️👁️ みどころ

おとぎ話の主人公たちはみんな善人。そして、物語はすべてハッピーエンド。そんなバカな……。そう考えた脚本家は偉い。そして『シカゴ』（02年）でひと癖もふた癖もある3人の主人公を登場させたロブ・マーシャル監督が、そんなブロードウェイ・ミュージカルを映画化！

ストーリー展開上のキーワードは「wish」。そして、『アナと雪の女王』（13年）と共通するテーマは「自立」だが、とことん人間の本性に迫っていく中で見えてくるものとは……？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□ 「アナ雪」以上に、こりゃ必見！ ■□

昨年の紅白歌合戦では、「アナ雪」こと『アナと雪の女王』（13年）の主題歌『レット・イット・ゴー』が席卷した。しかし、私の「アナ雪」の採点は星3つで、そんなに大騒ぎするほどの映画とは思えなかった（『シネマルーム33』未掲載）。また、『レット・イット・ゴー』の大ヒットにはビックリしたが、それによって私が以前から目をつけていた『関ジャニの仕分け∞』の女性歌手Ma y. Jが一躍注目されたのは喜ばしい限りだった。もっとも、昔から「一発屋」とはよくいったもので、Ma y. Jも、かなりド派手な「一発屋」で終わることはほぼまちがいないだろう。

「アナ雪」もディズニーのアニメだが、そもそも「アナ雪」のストーリー自体が日本人には全く馴染みのないもの。それに対して『イントウ・ザ・ウッズ』の中に盛り込まれたストーリーは、①シンデレラ、②ラプンツェル、③赤ずきん、④ジャックと豆の木。したがって、その主人公の①シンデレラ、②ラプンツェル、③赤ずきん、④ジャックやその周

辺の人物は、ほとんどの日本人が知っているキャラばかりだ。

ディズニーが得意にしてきたこれらの「おとぎ話」に共通するキーワードは森(ウッズ)。一時期あれほど全盛を極めたゴルフのタイガー・ウッズは今や落ち目を通り越して「どん底」だが、数々の有名なおとぎ話を素材としたうえで、「ウッズ」をキーワードとした『イントゥ・ザ・ウッズ』という全く新しいオリジナルな物語がブロードウェイ・ミュージカルとして初演されたのは1987年のことらしい。「ミュージカル大好き人間」の私もそれは知らなかったが、ブロードウェイのロングランヒット・ミュージカル『イントゥ・ザ・ウッズ』が映画化されたと聞き、こりゃ必見！しかも監督は、私が大興奮しながら観た傑作ミュージカル映画『シカゴ』(02年)のロブ・マーシャル監督(『シネマルーム2』59頁参照)だ。映画館の中は久しぶりにほぼ満席。さあ、スクリーン上にはどんなディズニーの夢の世界が・・・。

■□■めでたし めでたしのハッピーエンドに鋭く問題提起！■□■

日本の昔話でも、西欧のそれでも「めでたし めでたし」で終わるハッピーエンドが定番だが、ホントにそれでいいの？子供の頃からそんな物語ばかり聞かされていけば、本来あるべき人間の思考能力を奪うことになってしまうのでは・・・？憲法9条があるから戦後の日本の平和が守られた、とノー天気なフレーズをくり返している多くの識者を見ると、私はそんな疑問を持たざるをえない。

『イントゥ・ザ・ウッズ』の原作ミュージカルがそこまで考えたのかどうかは知らないが、本作は『イントゥ・ザ・ウッズ』と名付けられた曲が流れる中、「wish(願い)」をキーワードとして、4つの物語が進行し、すべての主人公たちが森の中へ入っていく。その後、それぞれの基本ストーリーが展開された後、「めでたし、めでたし」のハッピーエンドになっていくわけだが、それで終わらないのが本作のミソ。つまり、「その“森”で願いは叶ったはずだった・・・」という問題提起から本作の本格的ストーリーが展開していくことになる。「wish」は一般的に「願い」と訳されているが、他に欲望や祈りという意味もある。第2次世界大戦後の長い「冷戦時代」を経て、資本主義が社会主義に勝利したのは、煎じ詰めれば資本主義の方が人間の「wish(欲望)」に忠実だったから、といえるわけだが、他方で「wish」は格差を生み、争いの原因にもなっている。しかして、本作にみるパン屋夫婦を中心とする、赤ずきん、シンデレラ、ジャック、ラプンツェル、魔女たちの「wish」とは・・・？

■□■おとぎ話の主人公たちの「本性」に注目！■□■

『シカゴ』の主人公は、現スターの歌姫ヴェルマ・ケリー(キャサリン・ゼタ=ジョーンズ、最優秀助演女優賞にノミネート)と今後のスターを夢見る歌姫(ダンサー)ロキシ・ハート(レニー・ゼルウィガー、最優秀主演女優賞にノミネート)という新旧2人の

歌姫（ダンサー）と、凄腕弁護士のカリ・フリム（リチャード・ギア）の3人で、3人が3人ともひと癖もふた癖もあるキャラだった。それと同じように、本作に登場するおとぎ話の主人公たちのキャラも、ロブ・マーシャル監督流にヒネってあるから、それに注目！

原型のおとぎ話では主人公たちのキャラは善人に統一されているが、弁護士生活を丸40年間送ってきた私に言わせれば、善だけの人間などは存在せず、人間には必ず善悪の両面があるもの。つまり、キレイごとだけでは人間の本性は容易にわからないということだ。しかして、ロブ・マーシャル監督が私と同じ感覚で（？）徹底的に見つめ直した、パン屋夫婦と魔女、そしてシンデレラとその王子、その他のキャラたちの本性とは？

たとえば、シンデレラのおとぎ話では、シンデレラは意地悪な継母（クリスティーン・バランスキー）やその娘たち（タミー・ブランチャード、ルーシー・パンチ）からいじめられるばかりの存在で、シンデレラの王子（クリス・パイン）は理想的な王子様。ところが、本作にみるシンデレラはガラスの靴を忘れるのは計算づくだし、王子様は実は大変な浮気者らしい。そして、全体を通してそれぞれの「wish」が満足されてハッピーエンドになったと一瞬思ったものの、実は真のストーリーはそれから始まり、ホントの現実では夢が消えたり、さまざまな犠牲が発生することになるわけだ。『シカゴ』で3人の主人公たちの「本性」に徹底的に迫ったロブ・マーシャル監督の分析力を噛みしめながら、本作に登場するおとぎ話の主人公たちの「本性」に注目したい。

■□■地震？いやいや、ホントは巨人！■□■

後半の物語はネタバレ厳禁だが、シンデレラと王子の結婚式のセレモニーの中、すべてがハッピーエンドに。そのような「予定調和」の世界が崩れたのは、突然王国に大地震が発生したため・・・？そうすると、話はあまりにも現実的すぎるから、2011年3月11日の東日本大震災から4年目を迎えたばかりの日本人の多くが、本作を率直に受け入れることができなくなる。しかし、王子のスピーチの最中に地面が大きく揺れ、城壁が崩れ、大騒動になったのは事実だ。しかして、その原因は・・・？

そこからは、脚本のジェームズ・ラパインらが書いたオリジナルストーリーになっていくが、本作後半の新しいキャラは巨人。森の中にはさまざまな動物が棲んでいるから、巨人が棲んでいてもおかしくはない。しかし、この巨人は今までどこでどのように生活していたの？そして、なぜ今になって突然登場してきたの？そこらあたりに注目しながら、本作後半に展開される、おとぎ話の裏側に隠された驚愕の事実を堪能したい。

「アナ雪」と本作に共通するテーマは「自立」だが、最後に「自立」できている主人公は一体誰？また、『No One Is Alone』の曲は、あくまで前向きなメッセージだが、その裏では、大惨事やたくさんの悲劇も。それら乗り越えたいうでの『No One Is Alone』の境地に達することができれば、人はホントに強くなれるのだが、さて主人公たちは・・・？そしてあなたは・・・？

2015（平成27）年3月20日記